

標準炉定数検討SWG会合議事録

日時：1999年3月26日（月） 14:30～16:30

場所：原研本部 第5会議室

出席者：亀井、川合（東芝）、関（雄）、佐々木（研）、佐々木（誠）（MAPI）、
金城（PNC）、松延（住友原）、竹田（阪大）、大竹（データ工学）、
長谷川（原研）（以上10名）

配布資料

ST-1:高速炉用炉定数セット JFS-3-J3（高野：原研）

ST-2:熱中性子用炉定数セット SRAC-J3（高野：原研）

ST-3:JSSTD L炉定数システム（長谷川）

議事

1. 原研高野氏が欠席のため、配布資料1に基づき長谷川から高速炉用炉定数セット JFS-3-J3についての説明があった。

主なる議論

- ・ライブラリーの公開についての質疑があった。
できるだけ公開して欲しいとの強い要求があった。
標準炉定数として議論するなら、公開データでないと議論の対象とはならない
と言う意見が強かった。

2. 配布資料1に基づき長谷川から熱中性子炉用炉定数セット SRAC-J3についての説明があった。

主なる議論

- ・Fast region と thermal regionのエネルギー間にgapがある（スムーズにつながらないが）それでいいのか？
- ・同じくライブラリー及び利用コードの公開についての強い要求があった。
- ・またこれに関して、CRCが作成したWIMSのデータライブラリーについての現状と公開の可能性を聞いて見ることとした。
- ・JFS,SRACの両ライブラリーの内容、ベンチマーク・テストの結果については次回に高野氏から詳しく聞く事とした。

3. 配布資料3に基づき長谷川からJSSTD Lライブラリーシステムの説明があった。

主なる議論

- ・遮蔽については、遮蔽積分テストSWGで本ライブラリーを用いたベンチマークテストを行った。ガンマ線については、本年度おこなう。
- ・ガンマ線輸送断面積については、GAMLEG-JRを使っているため10keV以下でnegativeとなるため、原研田中氏の作成したGAMLEG-Nを使う方がいいのではない

か

- ・遮蔽のみでなく高速炉体系への応用については、本年度中国から来る研究者にベンチマーク・テストを実施してもらう予定である。

群縮役効果も検討して欲しいとの要望があった。

高速炉領域では、weighting function は $1/E$ であるので、fission spectrum 等利用者が入力して縮約出来るようにして欲しいとの要望があった。

- ・システムとしては、マスターライブラリーから必要核種のみ選んでコンパクトなライブラリーをつくりそれを利用するように出来る用になれば現状のままで機能は十分との意見があった。
- ・よく使われる群構造については、それ毎に磁気テープで持っていてそれをコピーする方が簡単では無いか？

データベースとしてのspace節約、一貫性の確保の観点からは、sourceは一つの方がよい。one touch で代表的な群構造へ落ちる方が良いのではないか。

全体に対して

- ・命名規約を考えた方が良い

特に、JUPITER解析で、核データライブラリーの名称を第1に持って来ると言う約束があったはずだが、それはどうなったのか？

外国でもそうになっていない、例えば VITAMINE-C 等。

核データセンターとの約束では、JENDL-3の名称が明らかになるようなものであれば良いという事だったのでないか。

その他

- ・次回に標準炉定数についての意見要望があったら出して欲しい
- ・周りにこのグループに参加してもらった方が良い人がいたら挙げて欲しい。

FNS 小迫氏

次回

1990年7月6日(金) 13:30 東京本部

JFSライブラリー
SRACライブラリー
FNSライブラリー